

# 研修医しぐさ



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530

E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

令和6年10月発行

## 医師会って何？ (第3弾)

和歌山県医師会役員である加藤正哉先生は、救急・災害医療担当として、今年の能登半島地震でも和歌山県医師会代表として、現地に入られました。加藤

正哉先生に、日本医師会災害医療チーム (JMAT: Japan Medical Association Team) についてご寄稿いただきました。

## JMAT が担う災害医療

和歌山県医師会

理事 加藤 正哉

医師会は医師を代表する団体として様々な役割を担っています。普段の生活において、国民の生命と健康を守っていることは以前の研修医レターでもお伝えしましたが、災害時にも被災地の内外で、行政とのカウンターパートとして、また様々な

関係機関との協働・連携団体として医師会が活動しています。

災害時に医療を提供する組織として有名なDMATは、1995年の「阪神・淡路大震災」において、平時のレベルの救急医療が提供されていれば「避けられた災害死」が多数存在した可能性を根拠に2005年に厚生労働省が設立したチームです。隊員は救命救急センターや災害拠点病院に勤務する救急医や看護師、コメディカルが多く、専門的な研修や訓練を受けて隊員資格を維持しています。皆さんの中には、救急医になるつもりはないけれど、将来災害医療には関わってみたい、と考えている研修医もおられると思います。専門診療科にかかわらず、災害時に被災地で必要とされる医療を医師として支援する仕組みが、日本医師会「防災業務計画」で策定されているJMAT (Japan Medical Association Team) です。

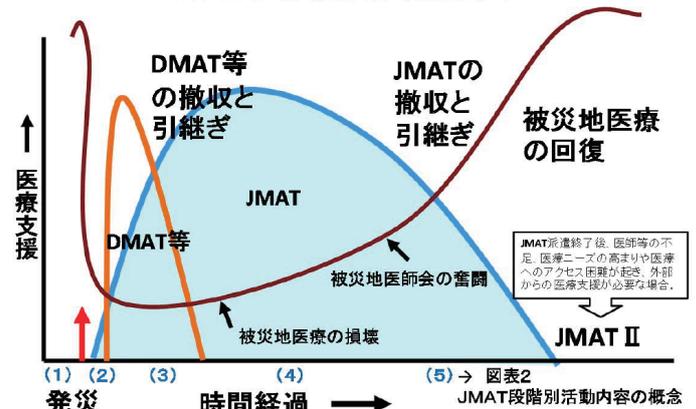
JMATは医師という専門職のプロフェッショナルオートノミーに基づいて、被災者の生命・健康を守り、被災地の公衆衛生を回復して、地域の医療の再生を支援する活動なので、意欲と倫理感を持って被災地で活動する最低限の知識と体力があれば、誰でも参加することが可能です。特別な資格はありませんが、都道府県医師会では事前にチームを登録しておくことで、日本医師会が提供している、被災地で活動するのに必要な研修を受けることができます。また実際に災害が起きた時は、被災地の医師会の要請によって全国の医師会が協働してチームを派遣しますので、災害医療に興味があって、医療支援活動に関わる意思のある先生は事前登録して頂くことをお勧めします。

都道府県医師会は以前より災害時の「指定地方公共機関」として、防災業務計画の作成や、防災訓練の実施など、様々な防災行政に参画していましたが、2011年東日本大震災でのJMAT活動が評価されて、2014年に日本医師会は災害対策基本法上の指定公共機関になったことで、JMATもDMATや日赤救護班と並ぶ災害医療チームに位置付けられています。

図1に大規模災害時のJMAT活動を発災からの時間経過で図に示しました。DMATは災害急性期にいち早く活動を開始しますが、全国から被災に派遣されるJMATは主にDMAT

の活動を引き継ぐ形で、避難所における医療や健康管理、巡回診療等を行うことで被災医療機関を支援します。実際の活動は、被災地の災害対策本部（保健医療福祉調整本部）のコーディネート機能下に、各保健医療チームや日赤救護班など様々なチームと協働して行われますので、JMATに参加してみようと思う先生は研修医会員として日本医師会にご入会頂き、JMAT研修を受講しておくことをお勧めします。

## JMAT活動の概念図



- (1) 災害発生期 登録・研修・啓発
- (2) 災害発生直後 (DMAT 到着前) 事前確認、派遣
- (3) DMAT の活動中
- (4) DMAT 等の撤収後 医療支援継続、公衆衛生、福祉支援
- (5) 被災地の医療体制の復旧に目処

## 平成23年東日本大震災

- ・日本医師会が、都道府県医師会に対し担当地区を指定してJMAT派遣要請
- ・全国から1,400チームが参加 (医師2,200名 総計6,239名)
- ・職種を問わず、日本医師会負担により障害保険加入



東日本大震災

平成 23年 3月11日



熊本地震

平成 28年 4月14日



令和6年度

## 地域における女性医師等支援のための会

8月24日(土) 16:00 から、和歌山県立文化会館 6階特別会議室において行われました。

和歌山県医師会会長 平石英三先生から、和歌山県医師会女性医師支援活動の説明と共に、開会の挨拶がありました。参加者は13名で、初めての参加者もあって、和やかな日頃のストレスが癒される会になりました。日本医師会からの予算で、アイスコーヒーと松風庵の和菓子とプリンを頂きながら、講演をお聞きしました。

講演は「研究、開業と非医師の配偶者との育児、家庭生活」と題して、うつのみやレディースクリニック院長の宇都宮智子先生にお願いしました。

先生は、和歌山県立医科大学卒業後、2010年に不妊治療を行うクリニックを開業されました。夫は研究者で、医師ではありません。梅の季節になれば、学識者としてコメントされる方で、ご存知の方も大勢いらっしゃると思います。なれそめをお聞きし、結婚秘話やこれまでの努力や苦労をお話いただきました。二人の実家は仙台と大分と遠方で、お子様の入院の時など、御実家から駆けつけてもらったそうです。二人の子供を育てながら、キャリアを維持しながら、発展させ続けているご様子に、一同尊敬のまなざしを向けました。先生がおっしゃるには、夫のイクメン活動が無ければ続けられなかったとのこと。ママ友や学会などで知り合った人脈、医局の先輩、従業員などの協力を得ながら、縁を大切にされてきた様子がうかがえました。強い意志、気力の重要性、双方の遠方の実家への気遣い、社会資源の活用、子供にも協力を求めるなど、コツをお聞きしました。参加者は、良い刺激を受けて、パワーを頂いた様子でした。



先生は、和歌山県立医科大学卒業後、2010年に不妊治療を行うクリニックを開業されました。夫は研究者で、医師ではありません。梅の季節になれば、学識者としてコメントされる方で、ご存知の方も大勢いらっしゃると思います。なれそめをお聞きし、結婚秘話やこれまでの努力や苦労をお話いただきました。二人の実家は仙台と大分と遠方で、お子様の入院の時など、御実家から駆けつけてもらったそうです。二人の子供を育てながら、キャリアを維持しながら、発展させ続けているご様子に、一同尊敬のまなざしを向けました。先生がおっしゃるには、夫のイクメン活動が無ければ続けられなかったとのこと。ママ友や学会などで知り合った人脈、医局の先輩、従業員などの協力を得ながら、縁を大切にされてきた様子がうかがえました。強い意志、気力の重要性、双方の遠方の実家への気遣い、社会資源の活用、子供にも協力を求めるなど、コツをお聞きしました。参加者は、良い刺激を受けて、パワーを頂いた様子でした。

続けて、和歌山県医師会の男女共同参画への取り組み状況の説明を行いました。医学生をサポートする会、研修医レターの発行、新研修医への講演、女性医師の勤務環境整備に関する病院長、などへの講習会、和歌山県男女共同参画委員会参加、女性医師バンク、託児サービスの状況説明を行いました。

今回は、不妊クリニックを経営している宇都宮智子先生のお話にて、医師としても女性としても大いなる刺激を頂ける会でした。年1回開催していく予定にしています。医師としてのロールモデルにもなります。又、交流会でもありますので、友人もできます。是非来年はご参加ください。

閉会挨拶として、和歌山市医師会理事の秋岡嘉美先生が、「真似はできなくとも、元気をいただいて帰りましょう!」と締めくくられました。和気あいあいとした、ちょっとコーヒーブレイクな1時間半でした。



編集  
後記

暑く長かった夏もやっと収まってきました。これを発行するときには、選挙も終わっている事でしょう。国民の健康を守るために、医師会が意見をまとめ、選挙に表現され、実現できるようにしていくのも医師会の活動です。医師会では、国会議員になった方々に、意見を伝え実現に向かわせていかねばなりません。

(文責：和歌山県医師会 濱田 寛子)

令和6年度

## 医学生をサポートするための会

9月6日、和歌山県立医科大学医学部4年生を対象に行われました。

講演「医学生のためのキャリア入門～自分の未来をデザインしよう～」



広島大学医学部附属医学教育センター教授・センター長の蓮沼直子先生にお願いしました。女性医師の海外留学についてグループワークを行い、代表チームが発表を行いました。

「医師の夫がいる。外科系専攻医である女性医師が、結婚、子育てを行いながら、キャリアを積み上げている。上司から新しい技術を学びに、希望があれば海外留学をしても良いと言われた。」①このケースの問題点 ②選択肢3つ以上挙げる ③そのうちベストと思うものとその理由を書く ④このケースに対応するために必要準備やスキルを考える 以上4点について話し合い、発表してもらいました。見合わせる、日本国内の留学を考える、子供を預けて自分一人で留学、家族全体で留学などが挙がりました。違った選択肢のそれぞれの代表チームが発表を行いました。今後のキャリア形成を考えるきっかけになった様子でした。

学生が書いてくれたアンケートの感想を表に上げておきます。学生たちの10年後、20年後が花開くことを期待しながら、目を通して下さい。

主催は和歌山県医師会、共催は日本医師会でした。

- ・ 講義ありがとうございました
- ・ ご講義ありがとうございました。いままでこのようなキャリアについての具体的にグループワークしたことがなかったので、新しい体験でした。今後キャリアを考えるにあたり参考にしたいと思います。
- ・ グループワークを行うことで今後起こりうる状況について想像を膨らませることができてよかった。
- ・ いろいろな人の意見が聞けていい教養となりました。ありがとうございます。
- ・ 今後、留学などを行うかどうか悩んだ際に、自分がどう選択をとるか考える手がかりになると思った。
- ・ 自分の将来について考える良い機会になりました。
- ・ これから医師として働くときに家庭と働き方について考える良い機会になりました。
- ・ ちょうど最近将来のことを考えることが多くなっていたので個人的にタイムリーな話題に興味を持って聞けた。いろんな意見が出たけど、状況によって考えることは増えそうだしそれぞれに正解はないと良くわかった。
- ・ 自分のキャリアと家庭について、最良の選択は何かをじっくり考える良い機会になりました。
- ・ 勉強になりました
- ・ 女医の将来について考える良いきっかけになりました。
- ・ 将来についてあまり考えたことがなかったので、グループワークで自分の素直な感覚が分かってとても良かったです。同級生の将来に対する意外な意見も聞くことができてとても楽しかったです。
- ・ 医師として将来働く際に、自分のことだけでなく家庭なども考えないといけないことを費用や子供のさまざまな面から色々考えました。将来のことが漠然としてあんまり考えたことがなかったのでいい機会となりました。
- ・ とてもためになりました。女性にとって自分のスキルアップと子育ての両立は大きな問題だと思います。日本も海外のように、もっと子育てをする女医とそのパートナーがスキルアップや勤務自体を諦めなくてよい環境を整えれば働きやすくなると感じました。今日のような講義は今後も取り入れてほしいと思いました。
- ・ 実際の事例や他の学生の意見から、いろんな視点を考えることができました。自分のやりたいことを上手く叶えられるように、ワークライフバランスについてよく考えてみたいと思いました。
- ・ 大切な講義ありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 日本人学校を再建した人の話に1番驚きました。
- ・ ディスカッションで学生間でも海外留学に関する意見がかなり分かれていたら、子育てに関する考えが別れていたのが印象的でした。
- ・ これからのキャリアを考える良いきっかけとなりました。

▲ 感想の一部です。